

追検査

令和四年度 学力検査問題

国語

(九時二十五分～十時十五分)
(五十分間)

番

第

受検番号

注 意

1 解答用紙について

- (1) 解答用紙は一枚で、問題用紙にはさんであります。
- (2) 係の先生の指示に従って、所定の欄二か所に受検番号を書きなさい。
- (3) 答えはすべて解答用紙のきめられたところに、はっきりと書きなさい。
- (4) 解答用紙は切りはなしてはいけません。
- (5) 解答用紙の※印は集計のためのもので、解答には関係ありません。

2 問題用紙について

- (1) 表紙の所定の欄に受検番号を書きなさい。
 - (2) 問題は全部で五問あり、表紙を除いて十四ページです。
- 印刷のはっきりしないところは、手をあげて係の先生に聞きなさい。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(26点)

茜は家具職人である父の「外国で職人になるのは現実逃避で、単なる甘えだ。」という反対を押し切ってフランスに渡った。現在はパリにあるアトリエ・リュミカールで、店主の息子であるデIMITリや他の職人と共に、様々な作品を額に収める額装職人として働いている。そんな中、同じくパリで映画を学ぶ侑果から、額装を依頼される。

夕飯を食べていると、侑果から返信があった。

「日曜は朝からいる予定なので、いつでもどうぞ。」

すぐに打ち返すと、侑果も間髪を入れず返事をよこしてくる。

「では午前中に伺います！ 良ければ一緒にランチしませんか？」

「Avec plaisir. (喜んで)」

時々、フランス語のほうが日本語よりしつくりくることもある。気持ちが明るんだ。

—お母さんにも、メールしようかな。

履歴を確認すると、先月の母の日に送ったメッセージが最後だった。

茜はいつもの「生存報告」に加え、オリジナル額装作品の写真も数枚送った。

母は写真を、確実に父に見せる。

それがわかっているのに、父が唸るような素晴らしい作品でなければ、と変な意地を張ってしまう。自分の中のハードルがどんどん上がり、今年は一枚も送れていなかった。

—デIMITリも侑果さんも褒めてくれたし、いいよね。

茜はそう自分を励ます。

額装職人として自信をもって仕事ができるようになり、依頼主に喜んでもらえるのは誇らしい。だが最近、オリジナル額装に取り組んでいると、自分は何を目指しているのかと途方にくれてしまう瞬間があった。

まだまだ腕は磨ける。成長できる。そう信じてはいたが、その先は？ リュミカールで働き続けたいのか、独立したいのか。独立するならフランスなのか、日本なのか……。

① まとわりつくもやもやした感情を払いのけたくて、日課の腕立て伏せを始めた。

いつもは昼にお弁当を持参する茜だが、週一回は同僚たちとレストランに繰り出す。スラングや冗談が飛び交う会話に付いていけなくても、共に過ごす時間を作るのは大切だと思っていた。

この日もよく行くごちんまりしたビストロで盛り上がり、茜は鴨のコンフィと格闘していた。骨付き肉をナイフとフォークで食べるのは苦行だ。手掴みで食べたくて、じれったく思っていると、「アカネもピカンのお相手、してみたい？」

デIMITリにいきなり話を振られて、ぼかんとした。

今日の午後は先輩の職人二人が美術館に赴き、ピカソ作品の額装をメンテナンスすることになっていた。初めて美術館出張の仕事を知ったとき、偉大な芸術家の絵画に携わることもできるのか！と鳥肌が立ったが「パリにはたくさんの美術館があるからね。收藏されている作品数の総計を考えてごらんよ。」と笑われた。

「私が、ピカソを？ いいの!」

「次の美術館出張は任せたいと思ってる。ピカソに会えるかはわからないけど、星の数ほど作品を残してるんだから、速くなくうちに機会が巡ってくると思うよ。」

歓びが胸の内で弾け、茜は「スエペール(すごい)」と叫んだ。またひとつ認めてもらえたことに、なにより興奮していた。

「クロッキーならいいけど、もっと古い時代の油絵だったりすると大変だぞ。額を外しただけで、パラッ……と塗料が落ちたりして、付きっきりの監視員にめちやくちや呪まれる。」

「この剥がれた絵具が何万ユーロです、とか脅されてな。」

「本当に？」

出張経験者の言葉に茜が青ざめると、皆はどつと笑った。

「何百年と経ってる絵画はそういうものだよ。それにアカネは慎重だから、大丈夫。」

「なんだよ、まるで俺がガサツみたいな言い草だな。」

茜も一緒に笑って笑う。しみじみこの職場が好きだなと思った。

最後は結局手摺みでコンフイにむしゃぶりつき、満腹のお腹を抱えて店に戻る。

「お父さんが怪我をして入院しました。連絡ください。」

何気なく携帯を確認し、母からのメールに目を剝いた。明るい気分は瞬時に吹っ飛び、ぞわりと冷たいものが背中を走る。

「電話してくるから、先に戻ってて。」

動揺を悟られないようポーカーフェイスで皆に声をかけ、茜は墓道に入った。悪い予感が急速に膨らみ、鼓動が速くなる。

「あ、茜？ 今そっちは何時だっけ、工作中？」

いつもの母だ。最悪の事態ではなさそうだと安堵しつつ、茜は気が急いで、おしゃべりに付き合う余裕もない。

「お父さんどうしたの？ 怪我って？」

「それがね、散歩中に土手から落ちて足首を骨折しちゃったの。」

「……散歩中に、足首？」

「骨のずれが大きいみたいで手術が必要なんだって。三〜四週間は入院。」

困り果てた母のため息は深かった。

「お父さん、最近体力もめっきり落ちて、これを機に工房は畳もうかってしよげてるの。茜、こっちに戻ってこれない？」

「——え？」

「お父さんは言わないけど、茜が工房を継いでくれたら喜ぶわよ。額装をメインに、装飾品とか作る工房にしたらどう？」

突然の提案に、茜の心臓は一瞬止まった。ぱくぱくと宙を食み、ようやく言葉を絞り出す。

「でも、お父さんが職人は止めるって……。」

「だけど結局、職人になっちゃったじゃない。ずっとフランスにいるつもりなの？ 茜が戻ってきたら、お父さんもやる気だして家具作りを続けるかも。ね、帰って来なさいよ。」

茜は混乱しつつ、言い募る母をなだめ、仕事を口実になんとか電話を切った。先ほどとは違う理由で鼓動が速い。

「どうしよう。」

ぼつりと眩くと、足元がぐらつき揺れるようだった。

父の工房がなくなるのは寂しい。それを継げたら誇りでもあるし、自分の店を構えられたらもちろん嬉しい。

でも父がこぼしていたように、日本で職人として食っていけるんだろうか。本当にやりたい仕事

ができるのだろうか……。

とぼとぼと店に戻ると、美術館出張組は既に出発していた。

「オカエリ。」

デイミトリが日本語で声をかけてくれ、いつもの柔らかな笑顔に少し泣きそうになる。茜は目で呼びかけ、倉庫に手招きした。

「お父さんが骨折して、一カ月くらい入院することになった。」

手短かに報告すると、デイミトリは想像以上に心配してくれた。顔を歪めて真つ先に「お見舞いに行つてこい。」と言う。

「仕事なら気にしなくていい。帰つてきたらその分働いてもらうよ。」

最後はちよつと冗談めかされ、^③茜は感じ入るものがあった。

「帰つてきたら。」……一人でぐるぐる悩んでいるのに耐えられなくなり、つい打ち明けてしまう。

「実は、帰国して父の工房を継がないかと言われたの。」

「クオワ(なに)!!」鋭い呻き声を漏らし、デイミトリは沈黙した。フーツと鼻息を漏らし、考え込むように腕を組む。

「アカネの仕事ぶりは、僕らを負けてられないつて気にさせる。僕らの考えつかないアイディアや工夫を見せて、刺激をくれる。これからもお互いに切磋琢磨できると思う。」

顔を上げると、穏やかな茶色の目で茜に銀きかけてくれた。

「でも、アカネの気持ちを尊重するよ。僕も父の店の二代目だ。親の工房があるなら、継承するのも大切なこと。この店のことは一度忘れてくれていい。日本に戻つて、ご両親とよく話し合つて、自分の納得いく答えを出してこい。」

デイミトリは大きな手で、ほんとにアカネの背中を叩いた。

「ここで働き続けることも、できる？」

ほとんど反射的にずがるような声を出した茜に、デイミトリは驚いた顔をして、不思議そうに笑った。

「あたりまえだろ。リュミカドルのファミリーなんだから。この件に関しては、今は僕の胸だけに留めておく。いいね？」

茜は子供のように、こくんと首を縦に振った。デイミトリの言葉に嘘がないのがわかるから、嬉しいと切ないが絡み合う。

仕事に戻ると、同僚ができあがった額装を梱包しているところだった。そういえば、いつのまにか皆が西方式の丁寧な梱包のやり方を真似している。

教わるばかりだと思つていた仲間たちに、自分も影響を与えている……ひたひたと湧いてくる熱いものを噛みしめ、茜も名前シール付きの作業道具を広げた。

まだまだフランスで学びたいことがある。そう考える時、いつも「単なる甘えだ。」と一喝した父の声が蘇つて苦しい。

——両親のために、帰国すべきなのかな……。

電話口で母の必死な説得を聞いていると、自分の意志さえ引つ込めれば、^④全てうまくいくのかもしれないと思えてくる。

答えが出ないまま、日曜がやってきた。

(バリエスあや子著「光を飾る」による。一部省略がある。)

(注) ※ビストロ……気軽に利用できる小さな料理店。

問 1 ① まどわりつくもやもやした感情 とありますが、このときの茜の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 領装職人としてまだ成長している実感が無いのに、作品が依頼主に喜ばれてしまう今の状況に思い悩んでいる。
- イ 領装職人としてこれから何を目指していくか、どこで仕事をしていくのがイメージできずに思い悩んでいる。
- ウ 領装職人として自信をつけてきたが、それでも職人である父がなかなか認めてくれないことに思い悩んでいる。
- エ 領装職人として依頼主に喜んでもらえることは嬉しいが、どうしたら日本で独立できるのかと思ひ悩んでいる。

問 2 ② 先ほどとは違う理由で鼓動が速い。 とありますが、このときの茜の様子を説明した次の文の空欄 、 にあてはまる内容を、それぞれ十字以上、十五字以内で書きなさい。(6点)

はじめは ため鼓動が速くなっていたが、今は ため鼓動が速くなっている。

問 3 ③ 茜は感じ入るものがあった。 とありますが、このときの茜の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 冗談めかされることで、茜が深刻に考えすぎないようにしようとするティミトリの配慮を感じて、胸が一杯になっている。
- イ 冗談めかされることで、家族の深刻な問題を真剣に受け止めてもらえていないように感じて、ひそかに憤りを覚えている。
- ウ 冗談めかされることで、むしろティミトリの方が茜よりも混乱してしまったことを知って、申し訳なく思っている。
- エ 冗談めかされることで、問題の深刻さがうまく伝わっていないことを痛感して、どうしていいかわからなくなっている。

問 4 ④ 全てうまくいくのかもしれない とありますが、このときの茜の心情はどのようなものですか。空欄にあてはまる内容を、母、継承の二つの言葉を使って、四十五字以上、五十五字以内で説明しなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。(7点)

茜が、自分の意志である

55 と思っている。

問5 本文の表現について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中から二つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

- ア 「Avec plaisir. (喜んで)」などのフランス語の表現を登場人物の言葉に織り交ぜることで、茜が日本を離れてフランスで生活していることを印象づけている。
- イ 「冗談が飛び交う会話に付いていけなくても」や「ナイフとフォークで食べるのは苦行だ」という表現によって、茜がフランスでの人間関係や生活に疲弊していることを印象づけている。
- ウ 茜の呼び方について、茜に対して友好的な人は「茜」、敵対的な人は「アカネ」と書き分けることによって、登場人物が茜にどのような心情を抱いているかをわかりやすくしている。
- エ 「茜も一緒になって笑う」のように登場人物ではない第三者の客観的な視点に立つ語り手によって物語が展開される一方、「しみじみこの職場が好きだなと思った」のように茜の心情が地の文でも表現されている。
- オ 「とはとはと店に戻ると」や「こくと首を縦に振った」などの擬態語による表現や、「茜の心臓は一瞬止まった」などの比喩表現を用いることで、登場人物の行動や心情をわかりやすくしている。

2 次の各問いに答えなさい。(24点)

問1 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。(各2点)

- (1) 美術の授業で彫塑の基本を学ぶ。
- (2) 消防署の管轄する区域が変わる。
- (3) 会議に諮ってから決定する。
- (4) 目標を日々ネットウにおいて活動する。
- (5) 周囲の環境を清潔にタモつ。

問2 次の――部「ような」と同じ意味(用法)であるものを、あとのア～エの文の――部から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

トラのような肉食動物は、食物連鎖の頂点にいる。

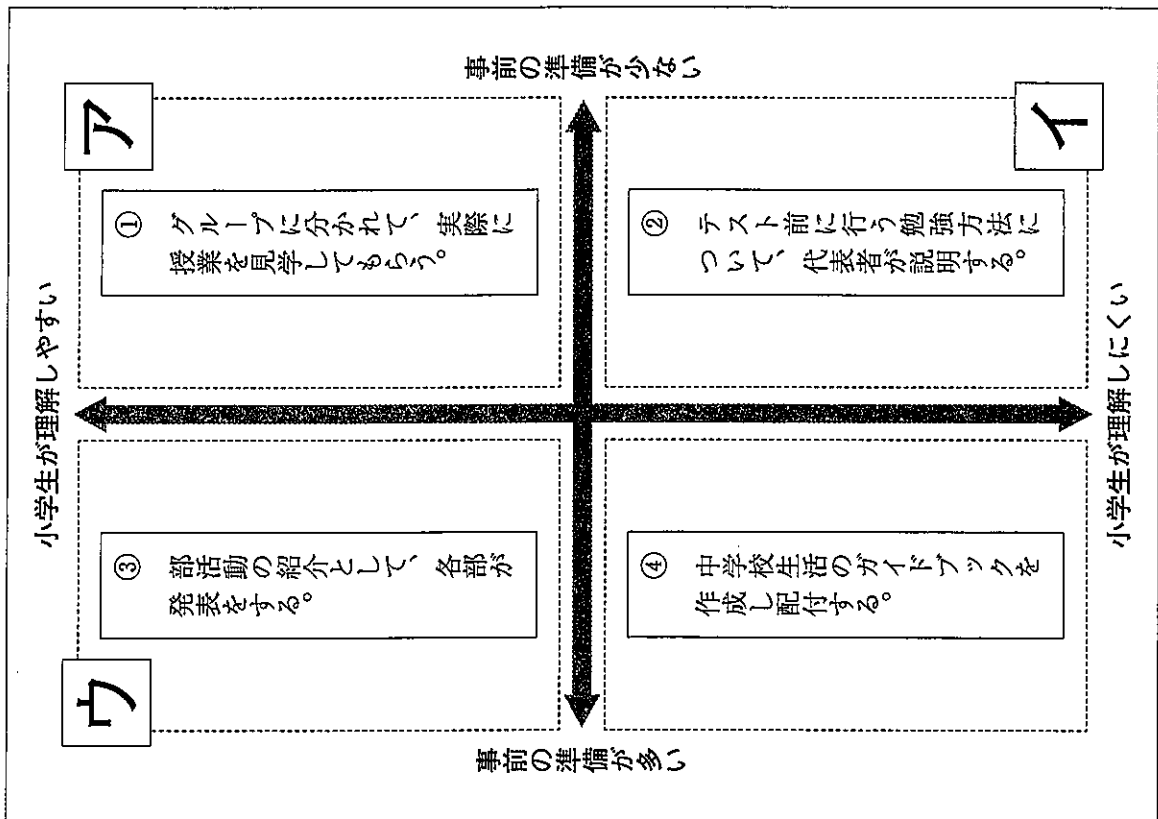
- ア 透き通るような薄い色の花卉を観察する。
- イ 次の挑戦こそは成功するような気がする。
- ウ 山のような荷物をトラックの荷台に積む。
- エ かき氷のような冷たい食べものが好きだ。

問3 国語の授業で、四字熟語のカードを六枚作成したところ、一枚のカードにそれぞれ一字ずつ漢字の間違ひがあることに気づきました。次のア～カのカードの中から漢字の間違ひがあるものを二つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|
| ア | 温厚徳実 | イ | 花鳥風月 | ウ | 試行錯誤 |
| エ | 自縄自縛 | オ | 五里霧中 | カ | 栄古盛衰 |

問4 中学生のAさんたちは、地域の小学六年生が自分たちの中学校へ見学に来る日に行う、学校紹介の内容を決めることになりました。これまでの話し合いで出た意見を整理した【表】と【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【表】



【話し合いの様子】

- Aさん「これまでに出てきた意見を【表】にまとめました。この中から実際に行う内容を、二つ程度に絞ります。賛成や反対だけでなく、改善点などについても発言してください。」
- Bさん「小学生が詳しく知りたいのは、授業やテストなど、『勉強』についてだと思うので①の授業見学か、②の勉強方法の説明のどちらかは行ったほうがよいと思います。」
- Cさん「賛成です。どちらか選ぶのであれば、②は中学校に入学したあとでも伝える機会があると思うので、授業見学のほうが適切ではないでしょうか。」
- Dさん「私も、小学生にとってのわかりやすさから考えて、授業見学に賛成です。先生方からも許可をいただいているので、問題なく実施できると思います。」

Aさん「では①の授業見学は採用する方向で進めましょう。他に何か意見はありますか。」

Eさん「中学校での生活について、小学校との違いが気になる人も多いと思うので、④のガイドブックの作成と配付は行つたほうがよいと思います。」

Bさん「そうですね。しかし【表】にあるように、ただガイドブックを配付して読んでもらうだけでは、イメージをつかみにくい小学生も多いと思います。ガイドブックにつけ加えて、何か中学校生活のポイントや実際の様子を上手に伝えるよい方法はないでしょうか。」

Dさん「ガイドブックを配つたあとで、その内容を説明する際に、私たちが小学生の前で中学校生活の各場面を演じてみせるというのはいかがでしょうか。」

Eさん「なるほど。体育館のステージを教室内に見立てて、中学校生活の大切なポイントについて、私たちの演技をみただうえで実際に考えてもらうわけですね。『百聞は一見にしかず』ということわざのとおり、とてもわかりやすい内容になると思います。」

Bさん「よいと思います。また、演技を加えるならば、④の意見は【表】の現在の位置から別の位置へと変更することができるのではないのでしょうか。」

Aさん「確かにそうですね。④の意見は修正したうえで、位置を変更しましょう。それでは、他の内容についても何か意見はありませんか。」

話し合いが続く

(1) 修正したうえで、位置を変更しましょう。 とありますが、次に示す④を修正した意見を、Aさんたちは【表】のどの位置に変更すると考えられますか。話し合いの様子をふまえて、最も適切なものを、【表】のA～Eの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(2点)

④ 中学校生活のガイドブックを作成し配付する。
※加えて、大切なポイントは演技をみせる。

(2) Aさんたちが今回の話し合いをまとめ、合意形成を図っていくために気をつけることとして適切でないものを、次のA～Eの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- A 相手の関心や価値観を考え、違いを認めつつ自分の意見を述べる。
- I 話し合いの目的を意識し、観点に沿って意見や提案等を絞り込む。
- ウ 出てきた意見を比較し、共通点を確認しながら話し合いを進める。
- E お互いの考えを尊重するため、出された意見は変えずに採用する。

(3) Aさんはこの話し合いのあと、国語の授業で、ことわざには別の言葉で似た意味をもつものがあることを知り、調べてみました。話し合いの様子にある、『百聞は一見にしかず』と似た意味のことわざについて、次の空欄 I にあてはまる言葉を漢字二字で書き、ことわざを完成させなさい。(3点)

「論より I 」……口先で議論を重ねるよりも I を出したほうが物事は明確になるということ。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(26点)

スマートさの本質を、この言葉の語源に遡り、製品やサービスそれ自体ではなく、それに対する私たちの感じ方のうちに見出した。その語源とは「痛み」である。痛みがそうであるように、スマートなものは私たちを受動的にし、私たちによる抵抗を不可能にし、それ以外のことを感じさせなくする、そうした排他性をもっている。

このことは、スマートなサービスにおいてその工程がユーザーに見えなくなっている、ということとも整合する。たとえば私たちが指を切ったとき、その痛みは即座に私たちに届く。しかし、実際には指の負傷と痛みの感覚の間には無数の段階が介在している。「痛み」は、指を負傷したあと、信号が伝達されることで、はじめて知覚されるのだ。しかし、私たちが知覚できるのは最後の痛みだけであって、それを成り立たせている信号伝達の経路はまったく知覚できない。負傷と痛みは同時にやってくるのであり、そこにはいかなる遅延も存在しない。そしてそれは、タップとともに決済が完了するスマートなサービスに遅延が存在しないことと、^①類比的なのだ。

したがってスマートなサービスが目指すのは、「痛み」がそうであるのと同じような、工程の不可視化であり、言い換えるなら距離の除去である。負傷と同時に痛みが襲ってくるように、ユーザーの欲望と同時にサービスを提供できることが、最高にスマートなサービスだ。このような意味で、ユーザーに対してサービスが遅延なく提供されること、ユーザーがサービスを受けるまでに待つ必要がないことを、スマートさの即時性と呼ぼう。

とはいえ、こうした即時性は最先端の科学技術を使えば簡単に実現できる、というわけではない。単に革新的な情報通信技術が誕生し、それによって一挙にサービスが完成したわけではない。むしろ、そうした新しい要素を既存の要素とどのように組み合わせ、物やサービスの動きをどのように設計するのが、ということが、スピーディーで遅延を感じさせないサービスの提供につながるのである。

^②サービスの即時性は全体最適化によって支えられている。たとえば、負傷と痛みが同時に発生するように感じられるのは、痛覚をめぐる身体機能が有機的に最適化されているからである。スマートなサービスが遅延なしに、まるであらゆる工程をスキップして目的を実現しているかのように感じられるのも、その背後にある無数の工程が最適化され、一糸乱れぬ緊密な運動を見せているからに他ならない。

このように工程を全体最適化させる仕組みは「ロジステイクス」として捉えることができる。スマートなサービスはロジステイクスによって支えられている。

最適化されたロジステイクスは、物やサービスをあるべきところに配送・供給できるように設計されている。それによって、ユーザーは望んだサービスを最短距離で享受できるようになる。

最適化されたロジステイクスはユーザーにとってサービスを即時的なものにする。それは工程の不可視化であり、ユーザーにとってサービスへの距離の短縮であって、^③現代社会のあらゆるサービスがそうした性格を帯びつつある。

そうした事態を予見していた哲学者がいる。マルティン・ハイデガーだ。彼は次のように述べている。

時間と空間における距離は、すべて収縮しつつある。以前なら何週間、いや何か月も費や

さないとたどりつけなかった場所に、いまでは人間は、飛行機を使えば一晩で到着してしまふ。かつては何年もたつてからようやく知ることのできた事件を、それどころか決して知ることのできなかつた事件すらも、人間は今日、ラジオ放送を通じて時々刻々、たちどころに伝え聞くのである。春から夏へ、夏から秋へと徐々に芽吹き、伸びてゆく植物の、そのひめやかな発芽成長の過程を、近ごろの映画はたった一分間であからさまに写し出してしまふ。一切の距離のありとあらゆる除去の頂点をきわめているのが、遠眺装置としてのテレビに他ならない。

ハイデガーはここで、新しい科学技術に共通する特徴を、「時間と空間における距離」の「収縮」という点から説明する。「飛行機」「ラジオ」「映画」は、かつては途方もない時間的・空間的距離を必要としていたようなサービスを、わずかな時間で提供してしまふ。そうした特徴をもつとも強く有しているのが「テレビ」であり、それは「一切の距離のありとあらゆる除去の頂点」に位置づけられる。

もしもハイデガーが今日に生きていたら、距離の除去の頂点を感じさせるものとして、オンライン会議システムを挙げていたかも知れない。もはや私たちは人と会話するために実際に対面する必要はなく、多くの場合オンラインで事足りることを知ってしまった。部屋にいながら海外で開かれている学会に参加することができる。しかもそれは驚くべき簡便さで、驚くべき低価格で、場合によっては無料で実現可能なのである。ここにはハイデガーの洞察する「距離」の除去の一つの完成形が示されている、と言える。

多くの場合、距離の除去に期待されているのは、I である。たとえば実際に海外の学会に参加するためには、現地のホテルを予約し、飛行機のチケットを買って、きちんとした旅程を組まなければならない。それは面倒だし、費用もかさむ。こうした制約がつきまとうために、そもそも海外の学会には参加できない、という人もいるだろう。

しかし、オンラインで学会に参加できるのであれば、こうしたデメリットは劇的に削減することができる。ホテルも飛行機も予約する必要はないし、そのための費用も必要ない。それによつて、これまで諦めざるをえなかつた人も海外の学会に参加できるようになり、それはもつと身近なものになる。

しかし、ハイデガーはそうは考えなかつた。

しかしながら、距離という距離をあわたたく除去したところで、近さは決して生じない。というのも、近さなるものは、わずかな分量の距離というのとは別物だからである。映画や映像やラジオの音声によつて、間隔上はわれわれに対してこのうえなくわずかの距離になったものといえども、われわれにとつてあくまで遠いままであつたりする。

ハイデガーによれば、^④距離を除去することは、私たちにとってそれが「近さ」として体験されることを意味しない。ここでいう「近さ」とは、単なる「わずかな分量の距離」を意味しているのではなく、あくまでも私たちにとっての身近さ、親近感、親しみやすさに近いものを指している。工程が見えなくなり、面倒な手続きを経ず、あつという間にサービスを受け取ることができたとしても、それはサービスが私たちにとって身近なもの、親しみやすいものになるわけではなく、むしろ「あくまで遠いままであつたりする」。ここでいう「遠さ」もまた、単なる距離の分量ではなく、縁遠さ、疎遠さ、余所余所しさとして理解されるべきである。

スマートなサービスは即時性をもつ。それはサービスへのアクセスを短縮し、工程を不可視化し、まるで魔法のように、いつでもすぐにサービスが使えるかのように感じさせる。しかし、だからといって、サービスは私たちに親近感を与えるとは限らない。むしろそれがサービスを疎遠なものとして体験させることもありうる。

(戸谷洋志著「スマートな悪 技術と暴力について」による。一部省略がある。)

(注) ※ロジステイクス……物の流れを効率的に処理するシステム。

※マルティン・ハイデガー……ドイツの哲学者。(一八八九〜一九七六)

問 1 ① 類比的なのだ。 とありますが、筆者はどのようなことを類比的だと述べていますか。その説明として最も適切なものを、次のア〜エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 「痛み」が一度感じてしまうとそれ以外のことを感じさせないような排他性をもっていることと、スマートなサービスが一度使用してしまうと手放せないものになってしまうことはよく似ているということ。

イ 「痛み」が身体内の信号伝達の結果として人間に知覚されることと、スマートなサービスが身体内の信号伝達の結果としてタップすることによって処理を遅延なく完了することはよく似ているということ。

ウ 「痛み」がその信号伝達が極めて速いため負傷と同時に知覚されることと、スマートなサービスが各工程の処理速度を上げたため自身の欲望を即座に認識するようになったことはよく似ているということ。

エ 「痛み」がその信号伝達の経路を認知できないまま負傷と同時に知覚されることと、スマートなサービスが途中の工程をユーザーに見せることのないまま処理を遅延なく完了することはよく似ているということ。

問 2 ② サービスの即時性は全体最適化によって支えられている。 とありますが、筆者の考える全体最適化とはどのようなことですか。次の空欄にあてはまる内容を、既存、連動の二つの言葉を使って、三十字以上、四十字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。(6点)

全体最適化とは、	
	30
	こと。

問3 ③ 現代社会のあらゆるサービスがそうした性格を帯びつつある。とありますが、この説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

- ア 現代社会では様々なサービスがユーザーに最短距離で提供されるため、ユーザーの近隣に立地して即時にサービスを提供できる事業者が選ばれやすいということ。
- イ 現代社会では様々なサービスがユーザーに最短距離で提供されるとともに、その途中に介在する工程がユーザーの側からは見えないものになっているということ。
- ウ 現代社会では様々なサービスが最適化されたロジスティクスに支えられているため、その途中に介在する工程の不可視化をユーザーの側から追られているということ。
- エ 現代社会では様々なサービスが最適化されたロジスティクスに支えられるとともに、距離と工程の短縮によりユーザーがサービスを身近な場所で享受できるということ。

問4 本文中の空欄 I にあてはまる内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア サービスを気軽に身近なものにすること
- イ サービスの利用者を増やし収益をあげること
- ウ 科学技術の進歩をさらに推し進めること
- エ 科学技術を活用し情報を即時に収集すること

問5 ④ 距離を除去することは、私たちにとってそれが「近さ」として体験されることを意味しない。とありますが、これを説明した次の空欄にあてはまる内容を、不可視化、即時性の二つの言葉を使って、三十五字以上、四十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。(7点)

距離を除去し、

35

45 ということ。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(……の左側は口語訳です。)(12点)

「やまと歌の道は、あさきに似てふかく、やすきに似てかたし」。「よむ事のかたきにあらず、和歌 御単なように難しい

よくよむ事のかたきなり」とは、定家卿の御教なり。あさきに似てふかくとは、

ふかきと云落着なり。よむ事のかたきにあらずとは、なをざりのうたの事なり。よくよむ事の 結尾は深いということなのである いい加減によんだ

かたきなりとは、秀歌の事なり。然者或は口とくよみ、或は歌教よむを、上手とおもふべからず。 時間をかけずよみ 教多く歌をよむこと

一期に一首なりとも、秀歌を心がけ給ふべき也。其秀歌といふにしなしなあり。是をしりわくる事 ① 識別する 一生のうち

師伝に有。

② 「和歌無師匠」とあれば、師伝といふ事有まじきと思ふ人あり。それはおろかなる事なり。

是にまづ両説あり。一には和歌は舞謡などのやうに、古ことをくちまねする事にあらず。 ③ 舞や謡曲

あたらしくよみ出すによりていふといへり。一には上古の歌仙をたづねるに師匠は見えざるに 遠い昔の歌の名人を調べる

よりいふといへり。此両説いづれも云にたらず。 ④ どちらも言うだけの価値がない

(「戴恩記」による。一部省略がある。)

(注) ※定家卿……藤原定家。鎌倉時代の歌人・歌学者。(一一六一～一二四一)

問1 是^①が指し示す語として最も適切なものを、本文中から漢字二字で書き抜きなさい。また、その語の対となる語句として最も適切なものを、本文中から七字で書き抜きなさい。(3点)

問 2 ② 和歌無師匠 とありますが、この部分は「和歌に師匠無し」と読みます。この部分に返り点を補ったものとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 和 歌 無 師 匠
- イ 和 歌 無 師 匠
- ウ 和 歌 無 師 匠
- エ 和 歌 無 師 匠

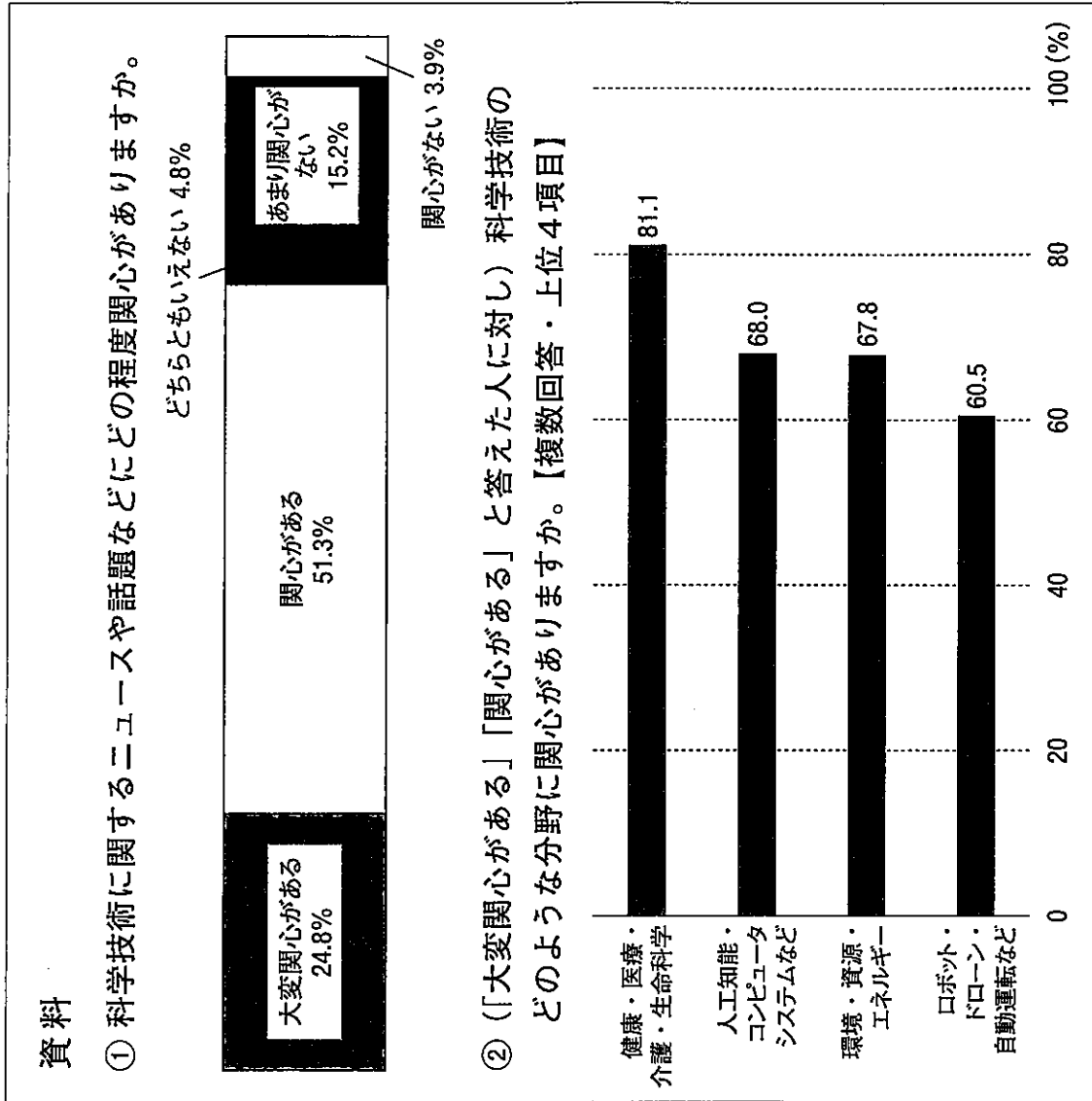
問 3 ③ 舞謡 などのやうに とありますが、この部分を「現代仮名遣い」に直し、すべてひらがなで書きなさい。(3点)

問 4 ④ 両説 とありますが、ここではどのようなことを指していますか。適切なものを次のア～オの中から二つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 和歌をよむことは、簡単なように思えて実は難しいという藤原定家の教えのこと。
- イ 和歌に師からの伝授などはないと主張する人がいるが、それは愚かな考えだということ。
- ウ 和歌は昔のものをまねするのではなく、新しくよみ出されるものだということ。
- エ 舞や謡曲などは、古くから伝わるものをまねするべきではないとされていること。
- オ 遠い昔の歌の名人を調べても、師匠から教わった形跡は見られないということ。

5 次の資料は、「科学技術の振興」について、県内在住者を対象に調査し、その結果をまとめたものです。

国語の授業で、この資料から読み取ったことをもとに「生活と科学技術」について、一人一人が自分の考えを文章にまとめることにしました。あとの(注意)に従って、あなたの考えを書きなさい。(12点)



埼玉県 第166回簡易アンケート「科学技術の振興について」より作成

(注意)

- (1) 二段落構成とし、第一段落では、あなたが資料から読み取った内容を、第二段落では、第一段落の内容に関連させて、自分の体験(見たこと聞いたことなども含む)をふまえてあなたの考えを書くこと。
- (2) 文章は、十一行以上、十三行以内で書くこと。
- (3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。
- (4) 題名・氏名は書かないで、一行目から本文を書くこと。

(以上で問題は終わりです。)

追検査

5 4 3 2 1

(作文は解答用紙(2)に書くこと)

問4 ※	問2 ※	問1 ※	問5 ※	問3 ※	問2 ※	問1 ※	問4 ※	問2 ※	問1 ※	問5 ※	問4 ※	問3 ※	問2 ※	問1 ※
()		指し示す語					(1)		(4)	(1)	()			
(と)	問3 ※	対となる語句	45	問4 ※	30		(2)	問3 ※	(5)	(2)	(と)			
()			35		40		(3)	(と)	つ	(3)				
											55			
													10	10
													15	15

国語 解答用紙 (1)

得点
※

受検番号
第 番

(ここには何も書いてはいけません。)

(切りはなしてはいけません。)

追検査

5

13	11													

国語 解答用紙 (2)

受検番号
第 番